



体育館がそのまま工場に。中心にあるのは自動裁断機



教室の壁を抜き、3教室分をミシン室に

ジャージを極めた縫製技術を 北緯40度から発信

普代村／株式会社エヌエルフォーティ

✓ 社長メッセージ



代表取締役社長 植田 一丸

柳ニット時代から、普代村で50年縫製業を続けてきました。4月から始まる、世界的スポーツブランドの体育着の国内認定工場として、生産量UPを図っていききたい。そしてOEM(ブランドの受託製造)を維持しながら、オリジナルブランド「KAZUMARU」や、新しい商品開発も進め、地元のを地元で着る、地産地着を広げていきます。



動画でキラリ
会社訪問

2019年春から、世界的なスポーツブランドの体育着の生産もスタートさせる、スポーツウェア専門の縫製会社、株式会社エヌエルフォーティ。北緯40度の普代村に工場を構えて以来、組織や社名を変えながら、地元採用の社員で事業を続けている。

村に根ざした企業として

縫製業のなかでもスポーツウェアに特化した、株式会社エヌエルフォーティ。北緯40度(N.L.40°)を意味する社名は、所在地である普代村のキャッチフレーズ「北緯40度東端の地球村ふだい」から来ている。株式会社柳ニット時代から数えて50年、この地で

縫製業を営んできた。社員は、ほとんどが地元採用である。

村にはかつて3つの工場があり、業務を分けていた時期もあった。しかし、村から廃校活用の提案があり、今は堀内小学校旧校舎に集約し、企画から縫製、在庫管理、発送まで一元化し、年間約30万着を製造している。

一元管理で短納期に対応

2階体育館に置かれた巨大な量産型裁断設備機器と、一枚裁断特化型裁断設備機は、アパレルCADにより生地からとれる身ごろ、袖といった、体育着のパーツのパターンを無駄なく配置し、そのデータでカットिंगが自動で行われる設備だ。ほかに手動の裁断機やプレス機、刺繍機が並

ぶ。同じ階にある広いミシン室では、長年勤めるスタッフが流れ作業で体育着を縫う。アイロンと梱包、発送は1階となっている。

「高校の体育着などは、合格してから実数が決まりますので繁忙期は1月～4月です」と植田一丸社長は説明してくれた。特に3月の合格発表から入学までに数が確定するだけに、春先の工場はフル稼働だ。タイトな納



パーツごとに工程を進めていく

期も国内にあるから対応しやすいという。5月～12月に、ある程度ストックする量をつくり、1月～4月は小ロットで実数までの量を生産する。小ロットに対応する生地の裁断機を購入したことで、これも可能となった。年間で受注量に差が出るため、季節ごとに労働体系を変える変形労働時間制により工場を運営し、繁忙期は休みを少なく、逆に閑散期には連休を取りやすい仕組みをつくっている。

「KAZUMARU」ブランド誕生

長年、企業のOEMが事業の中心だった同社が平成26年新たな挑戦を始めた。自社ブランド「KAZUMARU」



レーザーでカットするラインが描かれ、パーツが切り抜かれる



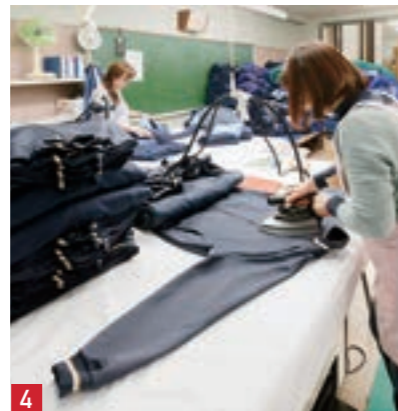
1



2



3



4



5

1 設備貸与制度で購入した刺繍機。社内で刺繍するのは初めてでわからないときは外注先に相談も 2 アパレルCADでパターンの配置を設計 3 これからアイロンを待つ、各学校の体育着たち 4 アイロンをして袋詰め。すべて手作業で行っている 5 開発中の「KAZUMARU」のサポーター

を核に、融資の優遇措置などが受けられる「経営革新計画書」を提出し、県から承認を得たのだ。同社の得意先は関東の学校のため、地元で着られる機会がなかった。それを「地産地消」ならぬ「地産地着」の発想で、介護施設など地元受注を増やしている。セミオーダーから完全オリジナルまで対応。「中間業者が入らない分、いくぶん安くすむのです」と植田社長はオリジナルブランドの魅力を語った。いまでは地元、普代小学校の体育着もつくる。鮮やかなイエローの切り返しが効いた独自性の強い体育着だ。「工場見学や職場体験の時、まさにその体育着を着て来るのですよ」と社長は目を細めた。

新たな開発にも着手

そしていま、ウェア以外の開発にも

取り組んでいる。ジャージの伸縮性を活用したサポーター用品である。まずは腰痛軽減のための腰ベルト、骨盤ベルトの製品化を目指している。高齢化が進む中、健康志向が高まり、身体をサポートする上で何か気軽にサポート出来て疲れや痛みが軽減できるモノ、または運動機能が高められるようなモノを提供したいと、モニターの声を集めながら、開発中だ。

世界的ブランドの国内認定工場に

高校や私立では、学校指定体育着も、スポーツブランドの体育着が採用されてきている。同社も今年4月から新たに世界的スポーツブランドの体育着の生産を開始するという。刺繍機はそのために、設備貸与制度を活用して購入した。認定に際しては、技術はもとより労働体制など、企業とし

ての姿勢も審査対象になったという。さまざまな基準をクリアし、国内認定工場となった。

新たな開発、新たな受注。地産地着の拡大で、全国へ、世界へ、同社の挑戦は続く。

表紙の答え：ジャージ素材の袖口などの生地



袖口などは伸縮性があり、縫製には技術が必要。

[キラリ★成長物語]

- 01 大手メーカーのOEM企業となる
- 02 いわて希望ファンドを活用し、自社ブランド「KAZUMARU」開発
- 03 設備貸与制度で刺繍機購入
- 04 新規開発製品で新たな受注の獲得

会社からひとこと

さんりく未来塾、設備貸与、マッチングフォーラム、いわて希望ファンド、よろず支援相談など今までたくさんの支援を受けています。新しい受注のために刺繍機も支援を受けて購入しました。

支援担当の声

当社は、県内でも数少ないスポーツウェアの縫製企業です。自社ブランド「KAZUMARU」を立ち上げ、現在では県内介護施設・保育施設を中心に普及し、「地産地着」が徐々に浸透してきております。さらなる成長の一助となれるよう引き続き支援してまいります。

>> 技術ポイント



小学校の跡地で業務を一元化

広い工場スペースで、一元管理により企画からパターン入力・裁断・縫製・仕上げ・検品・納品までワンストップマネジメント。



大手メーカーのOEM企業としてのジャージ製品専門への信頼

縫製業として、前身である柳ニット時代から続く50年の歴史は、技術と納期管理の信頼の証し。



世界的ブランドの体育着生産へ

さまざまな条件をクリアし、世界的スポーツブランドの国内認定工場に。ゆくゆくは体育着生産量UPへ。



自社ブランド「KAZUMARU」

ジャージのセミオーダー企画→既製品では出来ない、きめ細やかな仕様変更が可能な自社ブランドで地産地着をめざす。

企業DATA

会社名 株式会社エヌエルフォーティ **沿革** 平成5年/柳ニット(株)からスポーツウェア部門を独立、柳ニット(有)設立
代表者 植田 一丸
業種 繊維製品製造・縫製加工
工場 岩手県下閉伊郡普代村20馬場野43-2
電話 0194-35-2442
 平成16年/有限会社エヌエルフォーティに商号変更
 平成22年/旧堀内小学校へ工場移転。有限会社から株式会社へ移行
 平成26年/独自ブランド「KAZUMARU」立ち上げ
 平成30年/刺繍機導入

従業員 37名(パート含)
資本金 300万円
URL <http://www.nl40.com/>

